

令和5年度 第1回「佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会（子ども期・成人期）会議録

- 【 日 時 】 令和5年7月20日（木）19：00～20：15
- 【 場 所 】 まちなかコミュニティセンター 1階講堂
- 【 出 席 者 】 委員 17名（全20名中）※内オンライン出席者2名
- 【 欠 席 者 】 大田委員、横山委員、正林委員
- 【 傍 聴 者 】 1名
（事務局） 学校保健課・子ども発達センター・保育幼稚園課・子ども保健課・医療保険課・障がい福祉課・健康づくり課
（子ども発達センター・健康づくり課以外オンライン）
- 【 会 次 第 】
- 1 委員紹介（3名）
 - 2 部会長及び副部会長選出
 - 3 傍聴について
 - 4 議事
・第2次「佐世保市歯・口腔の健康づくり計画」（骨子案）について
 - 5 閉会

■開 会

健康づくり課長より挨拶

●議事録

1. 委員紹介
2. 部会長及び副部会長選出
3. 傍聴について
4. 議事
5. 閉会

1. 委員紹介

（事務局）

本来は、子ども期と成人期と2部会に分かれて専門部会を開催するようにしていましたが、第2次の推進計画を策定するにあたり、今年度中に策定していくこととなりますので、スケジュールがタイトになっていることと、計画策定でもあり、ライフコースアプローチの観点からも、子ども期と成人期を分けずに計画全体を一緒に見ながら策定していくという考えから今年度の計画策定部会は子ども期と成人期と合同で開催させていただいております。

この専門部会の親部会である「佐世保市歯・口腔の健康づくり協議会」が7月7日に

開催されましたが、その際に2部会合同で開催することにつきましては、報告し、了承していただいております。

今回、委員の交代がありましたので、ご紹介をさせていただきます。委嘱状につきましては、新しい委員の皆様には個別にお渡ししております。

まず、佐世保市小学校長会の松田委員です。次に、佐世保市中学校校長会の大田委員ですが、本日、用務により冒頭からのご出席ができないと伺っております。佐世保市PTA連合会の益田委員です。最後に佐世保市民生委員児童委員協議会連合会の中島委員です。任期は令和6年3月31日までとなっておりますので、任期までどうぞよろしくお願いいたします。

2. 部会長及び副部会長選出

それでは、会長・副会長の選任ですが、「佐世保市歯・口腔の健康づくり協議会」の中では、部会長を子ども期の部会長でもあった佐世保市中学校校長会から、副部会長を成人期の副部会長でもあった看護協会にそれぞれお願いできればと提案しておりました。

しかしながら、中学校校長会の大田委員が、本日は冒頭からご出席ができないとのことですので、本日の部会における部会長には、成人期の部会長である佐世保市歯科医師会八谷委員にお願いしたいと考えております。

皆様、ご了承いただけますでしょうか。

～委員からの拍手～

ありがとうございます。第2回合同部会の部会長につきましては、改めて提案、了承いただくこととしたいと思います。

3. 傍聴について

(事務局)

なお、条例第17条の2の会議の公開につきまして、傍聴を認める定員については、会場の規模その他の事情を考慮して、2名の傍聴席を用意しております。今回は1名の傍聴申込がありました。

会議を傍聴しようとする者は、会議の開始予定時刻の30分前から開始予定時刻15分前までの間に、会議が開催される場所において傍聴の申し込みを行い、会長の許可を受けなければならない。とあります。八谷部会長いかがでしょうか。

(八谷部会長)

傍聴を許可します。

4. 議事

(八谷部会長)

それでは、会議を進行いたします。

会次第より、第2次「佐世保市歯・口腔の健康づくり計画」骨子案について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

第2次「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」(骨子案)について

(資料2～5)

【健康づくり課より説明】

- ・(資料2) 骨子案は今後、検討していく中で、内容は変わっていくことがある。
- ・骨子案は1章から3章の構成としている。最終評価専門部会でも課題として挙げられた若年層からの取り組みの重要性を踏まえて、第2次の計画では学齢期及び成人期の働き盛り世代に重点を置き、歯科口腔保健の推進を実施していく。
- ・(資料3) 第2次計画の計画期間は、他の計画と整合性を図るため12年間とする。
- ・5つの基本方針に基づいてそれぞれ目標・指標を挙げている。
- ・(資料4) 国と佐世保市の指標の比較表になっている。国の指標は17個。市の指標は16個。その内2個は市独自の指標となっている。
- ・(資料5) 指標番号の③④⑤⑥⑦⑧の6項目の指標のデータソース及び目標値の考え方について本市が検討内容としている項目のどれがいいか検討していく。

(八谷部会長)

報告ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明の中で、前回まで行っていた(最終評価)報告の検討の中で皆さんに色々意見を出してもらった中で要検討となっていた項目が今出されているというように考えていいですね。データソースについて前回も色々と問題がありまして、佐世保市成人歯科健診からの数字で行っていましたが、母数が少なすぎてデータとしていかなものかという意見が出されていました。それに対して、健康づくり課の方でもどうしたらいいのかということを考えていると思います。ですので、これに対して皆様からのご意見を聞いていきたいと思えます。

ただ、その前に私から少しだけ。国の資料で結構(年齢の幅が)広くてですね、何歳以上という広い区分で出されているやつ。20歳以上とかですね。20歳から一番上までを全部ひとまとめにしているような括りの年代別というのがありますので。そうすると、対象の施策というのは非常にぼやけたものになってしまうのではないかと考えています。事務局からの提案も年代別に分けてやっていきたいというのは非常に個人的には賛成です。やっぱり、若い世代と働き盛り世代と年配の方とはどのように対処していくかとい

うことは変わってきて当然だと思いますので、その方向でやっていただけたらと思います。

それでは先ほどの目標値の考え方の資料5について皆様からご意見を伺っていきたいと思います。この中で要検討というのが入っていましたが、まず、指標番号③の「40歳以上における自分の歯が19本以下の者の割合の減少」ということで、データソースが要検討となっていました。検討内容も色々書いてありますが、これに関しての意見を聞いていきたいと思います。河野委員いかがでしょうか。

急に言われてもということでしょうけど。これも結局、40歳以上におけるというようになっていますが、これを40歳以上、60歳以上のような形で分けていただけるとより細かい数字が出るのではないかという、あくまで私の考えですが。その辺はいかがでしょうか。井手委員いかがでしょうか。

(井手委員)

商工会議所から来ました井手と申します。「40歳以上における自分の歯が19本以下の者の割合の減少」の現状は6.3%。これは数字としてどう捉えたらいいのでしょうか。良好なように見えますが。良好ですね。ただ、これは母数がどれくらいですかね。700とか900とかですかね。なので、その辺の取り方というのもあると思いますが。あくまで、これで会議自体はずっとやってきていますので、同じ数字に倣ってという形で、働き盛りの40歳。40歳が働き盛りかどうかは別として、現役世代の中でしっかり歯が健康であるということは一番大事なことのひとつだという風に思いますので、6.3%が良い数字であれば、何とか維持し、また、6.3%よりも少なくなることを目指していくような、何か私達も対策を我々商工会議所も含めてやっていかななくてはいけないというように感じました。

ちょっと意見になっていないかもしれませんが、そう感じました。

(八谷部会長)

ありがとうございました。他に何かご意見等はありませんでしょうか。

(事務局)

事務局から補足説明をさせていただきます。説明の中に「直線回帰モデル」という言葉がありますが、これは、これまでの実績値を並べて、そこの中の伸び率というところの比較を行って、12年間出していくというような推計のモデルとなっています。そういう計算式がありまして、そこの中で、そこを12年、本当にここまで伸びるのかとか下がるのかというのを精査して行けそうだとか、無理があるのではないかとこのところも実際、設定する中ではございますので、そこら辺のところを定めていくというところの推計値ということになっております。なので、先にどの手法で取るか、これでよろしいかというところを了承していただきますとそれでたたき台が作っていただけるということにな

っています。以上です。

(八谷部会長)

ありがとうございます。ということは、例えば、この③では（目標値の考え方の検討内容の）①から⑤までのどれで行くかということを考えればいいのですか。そういうことですね。太田委員いかがでしょうか。

(太田委員)

佐世保市歯科医師会の太田です。私の私見になるので、ちょっとまとまっていないのですが、現状値の6.3%という数字が確かに良いのかどうか分からないのですよね。良いかどうかというのは成人歯科健診から引用された検査数の少なさというものもありますので。

例えば、6.3%をそのまま維持という形で母数を増やすようにしてはどうかと思っていました。この成人歯科健診というのは、この40歳以上というのは節目健診から取ったものですかね。例えば、40歳、50歳、60歳という節目健診のデータが多分出てくると思うのですが、40歳のデータを10年後の40歳で見るのではなく、1970年代、80年代、90年代という生まれた年代でやっぱり見ていった方がいいのではないかと個人的に思いました。時代が違うので。以上です。

(八谷部会長)

ありがとうございました。ということで、この①から⑤には入らず、別の方法でということですね。追跡調査的な感じだと。

(太田委員)

④に該当すると思います。

(八谷部会長)

分かりました。年代を区切っていくというのは私も大賛成だと思います。

ただ、今日はたくさんあるので、順次やっていきたいと思います。今日これをきっちりやっていくとなると会議の時間ではまず終わらないというか、無理だろうと、複数回に渡るものではないかと思っていますので、ちょっと皆さんの意見を聞かせていただきたいと思います。

それでは、続きまして指標④の「20歳以上における未処置歯を有する者の割合の減少」となっていますが、これも佐世保市の検討案として①から⑤まであります。中身を見ると先ほどと同じような形になっています。里見委員いかがでしょうか。

(里見委員)

(現状値の) 37.2%というのは受診された割合でしょうか。すみません。私がちょっとここが理解できていません。

(八谷部会長)

これは健診の時にむし歯があったという人ですね。治療していない歯があったということ。

(里見委員)

年齢が上がってくると歯科受診の必要性というのは、ある程度理解できていると思うのですが、若いと、やっぱり痛くないと受診しない。何かなければ何もしないという方が多いのではないかと思います。

うちの職場にも職員がかなりいますが、歯科の会議に行ってきました。皆さんは受診していますか。と聞いても反応が薄かったり、なかなかその必要性というのを理解していないような気がします。

(八谷部会長)

ありがとうございました。中島委員いかがでしょうか。

(中島委員)

今回、初めて会議に参加して一生懸命読みましたが、内容的によく分からないのが多いです。ただ、歯の治療とか何とかというのは、多分若い人達は食べられないか、ひどく痛みがないとまず行かないと思います。

それと、高齢者になると、もう自分の歯ではどうにもならないから抜いてくれと言って抜いてもらうというのが現実だと思います。歯医者に行く時間が、仕事をしている人はなかなか時間が取れないのではないかと。私もそうでしたので。私もはっきり言って歯が1本もありません。全部総入れ歯です。

だから、そういう状態ですので、歯医者に行ける時間というのをきちんと何か取れるような仕組みにしていかないと。若い人達、特に現役でバリバリ仕事をしていて、時間を抜けるというのは非常に今難しいのではないかと思います。

だから、歯の健康をするためにはどうしたらいいのかって、歯医者に行かないようにその前の事態をちゃんとしないと、歯というのはなかなか痛くなってどうしようもなくなってからでないと多分病院には行かないと思います。その前の問題をどうにかしないと、いくら良くしようとしてもダメなのではないのかなと思います。申し訳ありません。内容的にどうか分かりませんが。

(八谷部会長)

ありがとうございました。年代によってその人の捉え方が違うということですので、もちろんそれに対するアプローチも必要。

ただ、働き盛りとなると、治療の時間が取れないということで、治療の時間を作るといのはなかなかですね。これは会社とそういうところの話になりますが、そういうところが要望が必要になってくるのではないかとということで、これも推進計画の中で大きく取り上げていったらいかがでしょうかと思います。

それでは次に行きます。指標⑤の「60歳以上における未処置歯の根面むし歯を有する者の割合の減少」ということですが、これは市の検討内容にもありますが、新たに今回入った指標で、初見です。なので、目標値を設定するというのは無理でしょうと思います。だから、データを積み上げていくという形で考えた方がいいのではないかと思います。この指標に関してはこれでよろしいでしょうか。

ただこれは、根面むし歯というのは歯周病などで歯茎が下がった後の根っこが露出したものです。その部分というのは非常に歯質がやわらかくて、清掃もしにくいということでむし歯になりやすいです。これから高齢化が進んでいくと、たくさん増えてきそうな雰囲気がありますので、そのぜひ対策は必要だと思います。

それでは次に行かせていただきます。指標⑥の「中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少」ということですが、市の検討内容で市内高校生のデータ把握についての調整、学校関係者の委員の方からの情報提供と書いてありますけれども、今日は確か高校の先生がこられていましたよね。よろしく願います。

(田中委員)

公立高等学校特別支援学校から佐世保北高校の田中と申します。

市内の高校のデータ把握についてということで、県立学校の方は上の方にあります県の学校保健統計調査の方を毎年、作成しておりますので、そこで把握が可能だと思います。私立学校の方は、私の方もあんまり把握ができてないのですが、歯科健診の方は同じように実施されていますので、正式な文書等で調査の依頼をされれば協力の方はしていただけるのではないかなというふうに考えております。以上です。

(八谷部会長)

ありがとうございました。公立と私立がそういう結構違うといのはなかなかちょっと僕らの感覚としては「そうなんだ」という感じではありますけれども。私も高校は1校健診に行っておりますが、私立の健診はしておりますので、データは持っておられるはずです。なのでこの市の方から依頼してもらえれば、揃えることができるんじゃないかと思います。

それでは次に行かせていただきます。指標⑦の「20歳代から30歳代における歯肉に炎

症所見を有する者の割合」ですね。データソースも含めてベースラインとも要検討となっております。現在のデータが佐世保市成人歯科健診の結果となるのでこの年代は非常にもともと少なかったんですね。その中に妊産婦健診というのが同時に行っておりまして、妊産婦の方は結構来られるので、そのデータとなっている方がほとんど妊産婦の方が占めるということで、それが普通の健診結果なのだろうかということは、以前より部会の方でも出されておりました。松永委員いかがでしょうか。

結局その20歳代から30歳代のデータを見たいがほとんどが妊産婦の人っていうところが問題ということですよ

(松永委員)

そうですね。それ以上僕もその通りとしか。

(八谷部会長)

やはり今と同じような体制でデータを取っていてもやっぱり同じような結果が出ると思います。以前の部会の最終評価報告書を作るときに、健康づくり課の方で言われていた、市内大学の健診を行うように努力していきたいと言われてましたけども。

大学生は18歳から4年大学では22歳までいますので、取ることができれば数字を増やすことができると思います。だから偏った内容はちょっと薄まって通常のものに持っていけないのではないかなと、僕は思いますけれどもどうですか。市内の大学って幾つありますか。3校ですか。短期大学まで入れると。

(大河内委員)

歯科と調理師専門学校、看護専門学校があるのでかなりの人数が集まる。増えますね。国際大学に関しては、薬学部までありますので6年生までいらっしゃるのでは。かなりの大学生がいるのかと思います。

せっかくなので質問させていただいてもいいですか。このデータが妊産婦数の歯科健診を基にと書いてあるので、そうすると、男性のデータがほとんど入ってないということになるので、このデータを使っていいのかっていうのがすごく気になるかと。

あと、最終的に数字が出たときに、国のデータと比較をしないといけないと思うので、そこで落とし込んでいく時に、国のやり方と大きく違う方向を持ってくるっていうのはやっぱりちょっと市の政策を出していく上ではちょっと気になるかなと思うので、やっぱりこの直線回帰モデルでやっていかないとしょうがないのかなって思うのと、あとデータを出したときに佐世保市の成人健診のデータを使ってあるのに、目標値のところ、③の佐世保市成人歯科健診以外でいいのかなっていうのがちょっと気になったんですけどこのあたり少し教えていただければと思います。

(八谷部会長)

事務局いかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃるように、こちらは、今の実績値は妊産婦健診、20歳から30歳までこちらは、内訳の中書いてあります通り414人のうち、女性が399人残りの25人しか男性の方が受けていらっしやらなかったということになっております。女性の方も399人が全部妊産婦かというところではないというところではありますけれども、すごく偏っているということが一つ。

データの指標としては、全体的なものを見せる指標の数ではないということになっていきます。この部分もですね、国の方でも歯科疾患実態調査の中からこれは国民の調査の方から取られているんですけども、20,30歳代の方というところの受診率っていうのは、少ないような状況にはなっていますので、そこら辺は大きく、中をもっと指標のところ細かく詳細を載せるかというふうな形で、表すものか。

でも、国が実際に目指すべきところの指標が、どうであるかっていうところですね。もう少しちょっとこちら確認させていただきながら、比較をして設定をさせていくことが必要かなというところを持っております。

(八谷部会長)

ありがとうございました。

元来ですね、この指標設定のデータっていうのはもう成人歯科健診から取るということでやっていたんですよ。

ただ余りにも成人歯科の受診者が少ないということで、数字を増やすために、妊産婦健診を行うということで、妊産婦の方が来られて、それから偏りがひどくなったというような経緯がありますので。それはもちろんですね、市の方も把握してまして、どうしたもんだというような感じで、前回の最終評価報告書の中では、データの方に、このうちの何人が、妊産婦健診とかそういう感じで元の数字を出して、事情を説明しているというような状態ですね。

市内に3校、大学があるっていうことなので、専門学校も3年とかあるやつは、1年分増えるという感じですけども。

ただ大学の場合はですね、県外の間が多くて佐世保市の成人歯科健診にそのまま使えるのかっていうあたりも問題があるんですよこれは。数的に取る分には問題ないですか。

(事務局)

大学の事業で、先ほど言われたように今度、新たな取り組みとして市内の大学生、以前から歯科医師会さんの方からもそういう依頼があっていたということもありましたけれども、今度、新たな事業として、市内の大学生を対象に歯科健診を実施しようということで、确实

にできるかどうかわからないんですけども、来年度の予算要求に向けてどういう取り組みにしていくかを今検討しているところです。

先ほど言われたように、大学生は住所を移さないで在学されてるという方も多数おられますので、その辺の取り扱いをどうしていくかというところは、今後検討していきたいと思っております。

(八谷部会長)

佐世保市も予算関係のこともありますので、住民以外の方に市の予算を使っていいのかということもあるでしょうね。ただ、そこら辺は何とかうまく理屈をつけて、是非、そういう若者の人数をまとめて取れるとかいうのはもうそれぐらいしか思いつかないですね。

あとは事業所健診の方を頑張ってもらおうという感じなのでしょうが、それもまたなかなか進まないという形で、事業で歯科健診をされてるところからデータをもらうっていうのもあるかもしれませんね。

(太田委員)

すいませんちょっと口を挟むようにちょっと入りましたけど。

この要検討のところですが、まず③から⑧まであるんですけど、この⑤と⑥の指標以外、本市の検討内容ってほとんど一緒ですよ。

なので、これ本当に突き進むとしたら、本当にこの成人歯科健診の受診率を増やすということに本当に特化するのか。

先ほども言われた通り、大学とか、その事業所なり、歯科健診、成人歯科健診とか、歯科受診を促すっていう形で、いや、データを増やしていかないといけないと思います。市の成人歯科健診の母数をただ単に増やせるということであれば、もうすごく正当だと思うんですけど、どうしてもやっぱり難しい場合は、少しちょっと奥の手を使わなきゃいけないのかなと思うところがあって、さっき中島委員からもありましたけど、やっぱり僕ら歯科医師っていうのは意識が高いので、やっぱり歯科受診をどんどん促して、受診してもらわなきゃいけないというのがありますし、僕らがいつも診ている患者さんというのは、やっぱり意識が高いから歯医者さんに来てる人たちなんですよ。

でもそうじゃない人たちがやっぱりこの佐世保市の中にはたくさんいるということで、中島委員のお言葉をいただいて、やっぱり、再確認したところではあります。そういうところを踏まえると、例えば今回の話というのは、ライフコースっていうものを、兼ねていて、佐世保市の将来的な介護予防にも繋がっていると思うんですよ。

そうならば、20歳とか40歳とかから、口の健康を守って、将来的な介護予防に努めるという将来の自分への投資ということを行ってもらおうということが大事。歯科医師の僕らが口の健康を守ることで老後がもう少し華やかになるよとか、そういうことをしっかり努めてなんすかね、拡散していかなきゃいけないんですけど。

やっぱり、それがちょっと、まだ足りてないし、時間がないというところがあるので、例えばこの大学に在学している佐世保市民、事業所関係の佐世保市民、市民税を払っていると
思うんですけど、市民税一部控除というのはどうですか。お願いします。すみません。

(事務局)

そのデータソースの数のことなんですけれども、国の方は歯科疾患実態調査というのを6
年に一度実施していますが、全国で、この前、令和4年度に行った歯科疾患実態調査の結果が
出てるんですけども、日本全国2,709人被調査者数(15,000人対象者)で、回答数が得られ
ている数は2,317人(質問紙回答のみは392人)ぐらいなんですよね。それを全国の代表とし
て、国の目標値として書いてあるので、うちの成人歯科健診も、もちろん数は少なくあるん
ですけども、全国の数と比べると、あんまり大差はないのかなというところが、ちょっと
この前の歯科疾患実態調査の結果概要が出ていたので、それを見ていて思ったんですけど
も、うちの成人歯科健診が、1218人いるので、国の歯科疾患実態調査と比べると、データの
母数はある方なのかなとは考えてはいます。

ただ若い方が、なかなかちょっと、受ける機会とか、あと受診される方が妊産婦ばかりに
というふうになっていたのも、私たちの考えとしては大学とかに出向いて健診ができたならな
ということ今考えているところではあります。

ちょっと答えになっているかどうかわかりませんが、一応、全国のデータ数として
はそういう状況だということで、国が目標値を考えていく上で、それぐらいの母数で考えて
いるということです。

(八谷部会長)

ありがとうございました。

ただいまの事務局のお話ですけども、国が行っている歯科疾患実態調査っていうのは、多
分サンプルを抽出して、綺麗にデータがこう並ぶような感じで示して取っているようなもの
ではなかったかと思います。一度したことありますけど、20歳台に何人、30歳台に何人、40
歳台に何人、50歳台何人みたいな形で、取ったことがあるんですね。それがこの言われてい
る歯科疾患実態調査かどうかは、すみません覚えてないんですけど、そんな調査をしたこと
ありますから、同列に見てしまうのはちょっと違うのかなと私は思います。違いましたかね。
そうだったと思いますけれども。

(事務局)

すみません、補足をさせていただきますと、やはり国の調査の結果にも、悲しいことにや
っぱり、20代30代はですね、20代が108人。30代が30歳から39歳の30代がですね、209人しか、
令和4年度の実績でも受けていらっしやらないっていうところになっております。
なので、若干30代のところはですね。少し、10代20代よりも多くなっておられるんですけ

れども、やはりそこら辺ってというのが国挙げての、ちょっと若い層の方々が歯科健診を受ける機会がないのか、関心がないのか。関心があっても機会がないのかというような問題が上がってきているところになっております。

なので、やっぱ基盤づくりとか受けやすいところというのは、先ほど、民生委員の中島委員さんの方からおっしゃられました通り、受ける手段とか受けやすい環境っていうのを押し上げていくということが、今後の課題ではないかなと思っています。やっぱり妊産婦さんがこれも私の考えなんですけれども、妊産婦さんが、旦那さんになられるご主人と一緒に連れて、歯医者に行くとかですね。そしたら、割と何歳か若い方、年齢はわからないんですけども、増えていくとかですね、何かちょっと一緒に相乗効果ができるような働きかけというの、アイデア一つでできるんじゃないかなというふうには思っております。

(八谷部会長)

ありとあらゆる知恵を出し合ってですね、そのあたりは取り組んでいただければと思います。

次は、指標⑧の「40歳以上における歯周炎を有する者の割合」です。要検討となっております。これに関しても、市の検討内容として挙げてありますけれども、これに関して、副部会長の福田さんいかがですか。

(福田委員)

看護協会の福田です。この項目に対しても他の指標と同様に、40歳以上という形でデータを見るとするとやはり範囲が広がるので、こちらも同様に各年代別で見ていく必要はあるのかなというふうにはちょっと感じてます。同じデータを用いて歯科健診からのデータを用いて、見ていくのであれば、あと年代別という評価の方がわかりやすいのかなというふうには感じます。

(八谷部会長)

ありがとうございます。それともうひとつ、江濱委員、よろしくお願いします

(江濱委員)

あとの項目も同じようなことになるのかなというのは、私もちょっとすいません勉強不足でいろいろ難しくてですね、今お話を聞いてるところではあるんですけども。この中で一つちょっとお尋ねをさせていただけるとすれば、案の中で、先ほどから年代別にとっていくのいいんじゃないかというのはあるんですけどもその中で、60歳代を上限にするっていうところは何かしら意図があつてのことかどうかだけすみませんお尋ねできればと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

上限で60歳までという区切りを設けてるのは、今回、40歳以上とか60歳以上とか20歳以上とかいうふうな感じで見ていきましたら、節目健診で満40歳、50歳、60歳っていう年齢相当の人には受診勧奨を行って、ハガキでの勧奨を行っているところなので受診者はちょっとずつと多くなるんですけど、やっぱり60歳代までの方の受診者数が、実績数が多かったというふうな経過がございました。70歳代、80歳代の方っていうのは、少なくなっております。

また75歳以上になりますと、長崎県広域連合の方に、「お口生き生き事業」というのがございまして、そちらの口腔ケアと合わせて健診事業がっております。ここ(指標⑨の検討内容)中にも、その調査票で、取っていきたいですっていうことでデータソース先を書かせていただいていたんですけども、100件以上ぐらい(受診者が)ありますっていうことで書いておりましたが100、3桁ラインの実績っていうことですね、伺っていたんですけども直近の令和4年度の「お口生き生き健康支援事業」の佐世保市実績分を伺いましたところ、249人の75歳から84歳までの受診者の方が利用されていたということで、別のサービス事業の歯科健診を利用されてあるというふうな項目がわかりましたので、うちの佐世保市の成人歯科健診を、データ総数で取る先としては、60歳代までというふうな形で考えているところで

(八谷部会長)

他の歯科のサービスがあるということだという話ですかね。ただし、歯周炎を有する者というのは年齢が上がるたびにだんだんと増えていくんですけども、ある一定の年齢を超えると逆に下がっていきます。

これは歯が抜けてしまって、歯周病を起こす歯がなくなっていくので、それに伴ってまた下がっていくので、これは効果的にこうグーッとこう上がっていくものではないので、これもやっぱり、きちっとこう年齢分けて、対応していかないと、というふうには感じております。

時間も思いっきり過ぎておりますので、意見多々ありましたけれども記録はとっていただけておりますよね。それは事務局にまとめていただいて、恐らく、とてもこの会議の場ですべてを終わらせるっていうのは無理ですので、メールでですね、ご意見伺いとか事務局の方から来ると思いますので、各委員の方々ですね、それに対してのご協力をお願いいたします。

それと、ちょっとだけ、私の意見をいいですかね。この中で、ちょっとこの前から思っているのが、「ちゃんと嚙んで食べれる」、「何でも食べれる」という項目がありますよね。口腔機能のあれっていうことなんですけど。しっかり何でもかんで食べれるっていうのと、きちんと飲み込めるっていうのはちょっと違ったりするんですね。

前回の意見の中にオーラルフレイルについて取り組んでいくっていうのがあったと思うんですけども、それを早い段階から(オーラルフレイルを)見つけるというのは、むせがあるかどうかっていうこともですね。是非、チェックを入れていくことはできないかなあと。

成人歯科健診の項目の中には「何でも食べれる」という1項目だけ、食べる機能に関しては書いてありますけど、もう一つ、むせたりすることがあるみたいなですね項目も入れるのはいかがかなあと。これは、私の私見です。以上です。

皆様、その他ご意見とかを聞いておきたいようなこととかはございませんか。

(益田委員)

佐世保市PTAの連合会から来ました益田です。

この全部にというか、共通すると思うんですけど、歯科健診の受診がやっぱり悪いということで、私は建設業を行ってるんですけど、必ず、建設業は年に1回健康診断を受けるという決まりがありまして、そこはもう必ず会社で「いついつ行け」という形でもうかなり時間を割いて行かれる状態で、どこの会社でも多分そういうふうにされてると思うので、そういった企業の健康診断とかと提携すればもう少しデータの抽出は増えるんじゃないかなと。

年代もその10代だったり、20代、各年代と今度どこの会社さんもおられますので、幅広くデータが取れるんじゃないかなと思います。

(八谷部会長)

ありがとうございます。それは本当にそう思います。

各事業者さんが、せっかく取り組んでいただけてるので、そのデータもですね非常に利用していただければと思っております。ただこれも、大学と同じで、佐世保市民とは限らないっていうのがあって、県外から会社に働きに来て、また県外に帰って行って、住所もそっちにあるみたいな方も結構おられるので、その辺がちょっと引っかかりというか、そこをクリアできれば、とてもいいものだと思います。

企業の健診の方は、医科の方はもう必須で、絶対しないといけないとなっていますが、歯科の場合はまだ努力目標で、取り組むのが望ましいみたいなそんな雰囲気なので。ただ、是非、取り組んでいただきたいと思っております。

これもしっかり、大学と含めて検討させていただきたいと思っております。どなたか他にご意見あられる方はおられませんか。

それでは随分時間も過ぎてしまいましたけれども、本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。これで議長の任を降りたいと存じます。皆様のおかげでつつがなく進行できたことを感謝申し上げます。

それでは事務局に進行を開始を開始いたします。

5. 閉会

(事務局)

八谷部会長様。本日は急なお願いで、快くお引き受けいただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

また、各委員の皆様におかれましても、ちょっと本日の内容が専門的なところも多かったとは思いますが、長時間にわたりご協議ありがとうございました。

先ほども部会長よりご案内がありました通り、本日の協議を受けて、データ総数の内容につきましては、事務局の方で再度整理をいたしまして、後日、書面なりメールなりを利用いたしまして、改めてご意見をちょうだいいたしたいと思っております。

その後また集約をいたしまして、本日お示しできませんでした目標値につきましても、後日、ご意見を賜りたいとも思いますので、よろしくお願いいたします。

次回の第2回の専門部会は、開催は10月を予定しておりますので、この中で専門部会の最終的な意見を集約させていただきたいと思っております。

以上をもちまして、令和5年度第1回佐世保市歯口腔の健康づくり専門部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。